

2015 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	環太平洋文明研究センター
研究センター長名	安田 喜憲

I. 研究成果の概要

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなってできるだけわかりやすく記述してください。

■拠点全体の研究成果

- ①年縞の発見:コロンビア・グアタビータ湖において本格的な調査を行い、約4m長さのコアの採取に成功した。日本への輸入も成功し、現在分析中である。この成果を2016年度8月に開催される世界考古学会などで発表する予定である。
- ②地震データベースの構築:日本列島周辺における1923年～2014年までのM1以上の地震について汎用性の高いデータベースを構築し分析を行った。地震のステージと火山活動に関連があることが明らかになり、その成果を公開した。
- ③研究協定の締結:コロンビア人類学・歴史学研究所(Instituto Colombiano Antropología e Historia)と、立命館大学環太平洋文明研究センターとの間で、研究協定を締結した。
- ④シンポジウムの開催と出版:当研究拠点第3回目となる九州・佐賀シンポジウム「東シナ海と稲作漁撈・弥生文化」(1月9・10日、佐賀市)を開催し、また環太平洋文明叢書の第二弾として「日本神話と長江文明」(雄山閣, 190p)、第三弾として「稲作文化にみる中国貴州と日本」(雄山閣, 195p)を刊行し、研究成果を広く一般に発信した。

■各グループの研究成果

第1班(文化人類学):環太平洋地域における人間＝環境関係をめぐり、各メンバーの調査・研究の成果を確認し、文化人類学と環境考古学の「統合」に向けた理論的検討を進めた。北米、中南米、モンゴルでの現地調査はおおむね順調に進んでおり、また研究会では問題意識の共有化を図りつつ、有意義な議論を行なうことができた。以上の成果をもとに、来年度は、文化人類学と環境考古学の「統合」を水・物質循環の概念に着目して検討する理論的な方向性を、各メンバーがフィールドとする環太平洋諸地域の事例をもとに検討し、理論モデルの精緻化を進める予定である。また、メンバー各人が実施してきた調査・研究の成果をもとに、論文投稿および研究発表を積極的に行なった。このうち、近現代モンゴルにおける人間＝環境関係をめぐっては、東北大学東北アジア研究センターにおいて、シンポジウム「モンゴルとカザフにおけるモノの域内流通と域外流通」にて報告を行なった。

第2班(環境考古学):コロンビア・グアタビータ湖の湖中央部の水深23mの地点において、約4mの長さの柱状湖底堆積物の採取に成功し、日本への輸入も無事に完了している。この柱状湖底堆積物は少なくとも過去2000～3000年間程度の過去の情報を保存していると推測でき、今後の分析からムイスカ文明時代の環境変遷史の解明が期待できる。また、前年度採取した福井県北潟湖・日向湖・菅湖・久々子湖、三方湖の分析から、特に人間活動との関わりに重点をおいた環境変遷史を復元し、今年度6回発表するなど積極的に研究発表を行い、成果の発信を行っている。

第3班(縄文考古学):研究課題1「縄文文化の起源と終焉を中心とするGISデータベース構築研究」では、関西地方の住居・墓などの出土遺構約12,000基、土器・石器・祭祀道具などの遺物約23万点についてデータベース構築を進めた。研究課題2「遺跡調査におけるミクロな情報の活用」では、京都府向日市で採取した5万年間以上におよぶ土壌コア試料の分析を継続し、京都盆地における縄文時代前期の洪水頻発期(約5700年前)に遺跡分布が変化する可能性があることを解明した。琵琶湖葛籠尾崎湖底遺跡の調査を実施し、新たに須恵器・陶器と思われる土器を5か所で発見した。また、尾関清子氏(東海女子短期大学・名誉教授)から寄贈された縄文時代の編物関係資料の整理を進め、資料図録を刊行した。以上、縄文文化から弥生文化への移行解析における情報基盤の整備とデータ・資料の解析を進め、新たな成果を得ることができた。

第4班(災害地理学):環太平洋地域の地震(津波・火山爆発)被害の史・資料からデータベースづくりを行ない、地震の発達ステージと火山活動の関連性について高い予測が行えることが明らかになってきた。とくに、南海トラフ地震が5年以内に起きる可能性は非常に高いと結論づけられたため各種報道媒体を通じて発表した。歴史的に十数回繰り返された地震記録の解析から、南海トラフ地震の発生には、季節性があることや黒潮の潮流型との関連性など新たな知見も得ることができた。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2016年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位	
センター長	安田 喜憲	衣笠総合研究機構	教授	
副センター長	渡辺 公三	先端総合学術研究科	教授	
運営委員	高橋 学	文学部	教授	
	矢野 健一	文学部	教授	
	松永 光平	文学部	准教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	小川 さやか	先端総合学術研究科	准教授	
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	富田 敬大	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		篠塚 良嗣	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		中村 大	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		神松 幸弘	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		近藤 宏	衣笠総合研究機構	専門研究員
		石田 智恵	先端総合学術研究科	研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	学振特別研究員 (PD・RPD)			
	博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍院生	原田 昌浩	文学研究科	博士課程後期院生
		モリ カイネイ	先端総合学術研究科	博士課程後期院生
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)				
客員協力研究員	市木 尚利	ペルー・リマ日本人学校	常勤講師	
	尾関 清子	東海学園女子短期大学	名誉教授	
	小野 林太郎	東海大学海洋学部海洋文明学科	准教授	
	嘉幡 茂	ラス・アメリカス大学社会科学部人類学科	准教授	
	北川 淳子	福井県里山里海湖研究所	主任研究員	

	坂井 正人	山形大学人文学部	教授
	塩谷 崇之	真和総合法律事務所	弁護士
	篠上 雄彦	日本検査キューエイ株式会社審査本部審査第3部	理事審査員
	清水 昭	国家公務員共済組合連合会三宿病院脳卒中センター	センター長
	瀧上 舞	日本学術振興会	特別研究員(PD)
	竹田 武史		写真家
	竹林 征雄	アマタホールディングス株式会社	取締役
	谷口 正次		資源・環境ジャーナリスト
	谷家 衛	あすかアセットマネジメント株式会社	代表取締役会長
	中山 厚	財務省国税不服審判所	次長
	那須 浩郎	総合研究大学院大学先導科学研究科	助教
	野嶋 洋子	国際日本文化研究センター	プロジェクト研究員
	長谷川 悦夫	埼玉大学教育機構	非常勤講師
	藤木 利之	岡山理科大学理学部基礎理学科	講師
	村山 茂樹	日刊工業新聞社編集局第二産業部	記者
	森下 直紀	和光大学経済経営学部	講師
	山田 和芳	静岡県ふじのくに地球環境史ミュージアム整備課	准教授
	吉澤 保幸	ぴあ株式会社	取締役 CCO
	東村 純子	福井大学教育地域科学部	講師
	真邊 彩	鹿児島県立埋蔵文化財センター	文化財研究員
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	松森 智彦	同志社大学	助教兼研究員
	上峯 篤史	京都大学	特定助教
	中塚 良	向日市埋蔵文化財センター	主任
	千葉 豊	京都大学文化財総合研究センター	准教授
	大野 薫	大阪府立狭山池博物館	嘱託
研究所・センター構成員 計 44 名 (うち学内の若手研究者 計6名)			

Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2016年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	小川さやか	第6章脳内コックピット探訪記『飛び立つスキマの設計学—シェルターからコックピットへ』	共著	2015年4月	産学社	椿昇編	pp.28~37
2	安田喜憲	日本神話と長江文明	単著	2015年5月	雄山閣		190p
3	高橋学	高雄のモミジと醍醐のサクラ—環境史から見た京都の	単著	2015年7月	文理閣	立命館大学地理学教室編	pp.150~167

		観光一、『観光の地理学』					
4	安田喜憲	ミルクを飲まない文明	単著	2015年8月	洋泉社		235p
5	原田昌浩	「元稲荷古墳の墳丘復原と築造規格」、『元稲荷古墳の研究 向日丘陵古墳群調査研究報告 第2冊』	単著	2015年12月	向日市埋蔵文化財センター	向日市埋蔵文化財センター編	pp.107~116
6	原田昌浩	「特殊器台形埴輪からみた元稲荷古墳の位置付け」、『元稲荷古墳の研究 向日丘陵古墳群調査研究報告 第2冊』	単著	2015年12月	向日市埋蔵文化財センター	向日市埋蔵文化財センター編	pp.123~134
7	中村大	「関西縄文研データベースに記載された遺構・遺物点数の総数見積り」、『第16回関西縄文文化研究会研究集会 縄文研究と美術・縄文時代の装身具 発表要旨・資料集』	共著	2015年12月	関西縄文文化研究会	関西縄文文化研究会編	pp.35~41
8	渡辺公三	監訳・解説『大山猫の物語』	共著	2016年3月	みずぎ書房	クロード・レヴィ＝ストロース著, 福田素子・泉克典共訳	392p
9	矢野健一	尾関清子先生寄贈編物関連資料一覧	共著	2016年3月	立命館大学環太平洋文明研究センター	鈴木大輔編	90p
10	矢野健一	家根祥多先生著作集	共著	2016年3月	立命館大学文学部	妹尾一樹編	260p
11	小川さやか	「第2章 仕事は仕事—東アフリカ諸国におけるインフォーマル経済のダイナミズム」、『仕事の人類学』	共著	2016年3月	世界思想社	中谷文美・宇田川妙子編	pp.112~150

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	北川淳子	世界標準時計 福井の水月湖「年縞」について	単著	2015年4月	福井北ロータリークラブニュースレター』, Vol.2208		pp.3	無
2	小川さやか	Living for Today の人類学ひとりでも家族でもなく「みんな」が生計単位	単著	2015年4月	光文社、『小説宝石』, 5月号		pp.398 ~ 406	無
3	中村大	縄文時代の研究動向	単著	2015年5月	日本考古学協会、『日本考古学年報』, 66号		pp.24~30	無
4	小川さやか	Living for Today の人類学コピー商品で何か問題ある?	単著	2015年5月	光文社、『小説宝石』, 6月号		pp.136 ~ 143	無
5	小川さやか	Living for Today の人類学中国系商人とアフリカ系商人、異なる二つの偽物商法	単著	2015年6月	光文社、『小説宝石』, 7月号		pp.462 ~ 469	無
6	渡辺公三	冷戦期における「構造」の生成—レヴィ＝ストロースの探究	単著	2015年7月	『精神医学史研究』, Vol.19, no.1		pp.17~21	無
7	小川さやか	Living for Today の人類学第8回「中国のパクリ文化、その経済戦略」	単著	2015年7月	光文社、『小説宝石』, 8月号		pp.69~75	無
8	小川さやか	Living for Today の人類学第9回「契約ではなく信頼で動く経済」	単著	2015年8月	光文社、『小説宝石』, 9月号		pp.100 ~ 107	無
9	高橋学	鬼怒川大洪水	単著	2015年9月	講談社『現代ビジネス 2015年9月15日電子版』			無
10	小川さやか	Living for Today の人類学第10回「ケータイ文化で変わる「貸す」「借りる」の人間関係」	単著	2015年9月	光文社、『小説宝石』, 10月号		pp.100 ~ 107	無

11	小川さやか	特集本の森への道案内「アナザーワールドを構想し、いまこの世界に戯れるために」	単著	2015年9月	『アジア研ワールドトレンド』, 10月号		pp.14~15	無
12	Okina Nakamura	Jomon Period	単著	2015年9月	Japanese Journal of Archaeology, Japanese Archaeological Association, Vol.3, no.1		pp.52~53	無
13	Kazuyoshi Yamada	Magnetic properties of surficial sediments in Lake Ogawara on the Pacific coast of northeastern Japan: spatial variability and correlation with brackish water stratification	共著	2015年10月	Earth, Planets and Space, December 2015	Akira Hayashida, Ryoma Nakano, Aya Nagashima, Koji Seto, Hitoshi Yonenobu	pp.67 ~ 171	有
14	小川さやか	Living for Today の人類学第11回「借りの連鎖で形成される海賊的な社会システム」	単著	2015年10月	光文社, 『小説宝石』, 11月号		pp.100 ~ 107	無
15	松森智彦	系統樹による二値データの階層化と共通特性の算出	単著	2015年11月	文化情報学会, 『文化情報学』, 第11巻 第1号		pp.1-9	有
16	小川さやか	Living for Today の人類学第12回「不確実なものか排除された世界で私たちは」	単著	2015年11月	光文社, 『小説宝石』, 12月号		pp.348 ~ 355	無
17	富田敬大	モンゴル都市周辺地域における家畜預託の実態とその変容についての歴史人類学的研究	単著	2015年11月	公益財団法人三島海雲記念財団, 『研究報告書』, 52号		pp.145 ~ 147	無
18	富田敬大	近現代モンゴルにおける人間=環境関係の変容に関する研究	単著	2015年11月	公益財団法人高梨学術奨励基金, 『高梨学術奨励基金年報平成26年度』,		pp.311 ~ 318	無
19	中村大	『防長風土注進案』の村別地図データの改良について	共著	2016年1月	山口大学教育学部, 『山口大学教育学部研究論叢』, 65巻第1部	五島淑子	pp.25~32	無
20	松森智彦・中村大	『防長風土注進案』の産物記載にみる食品目録(3) —鳥獣類を中心に—	共著	2016年1月	山口大学教育学部, 『山口大学教育学部研究論叢』, 65巻第1部	山根麻希、五島淑子	pp.33~44	無
21	石田智恵	軍政下アルゼンチンの移民コミュニティと「日系失踪者」の政治参加	単著	2016年3月	京都大学大学院人間・環境学研究科文化人類学研究室, 『Contact Zone』, 7号		pp.82~100	有
22	Y. Kohmatsu	Terrestrial-aquatic linkage in stream food webs along a forest chronosequence: multi-isotopic evidence	共著	2016年3月	Ecology 誌 doi: 10.1890/15-1133.1	Ishikawa N. F., H. Togashi, Y. Kato, M. Yoshimura, C. Yoshimizu, N.O. Ogawa, N. Ohte, N. Tokuchi, N. Ohkouchi, I. Tayasu.		有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	富田敬大	牧民による自然資源の利用	2015年4月10日	第8回社会脆弱性評価グループ会議 鹿児島大学東京リエゾンオフィス	
2	Kenichi YANO	Demographic Fluctuation in Jomon Period of Japan	2015年4月16日	the 80th Annual Meeting of Society For American Archaeology, Hilton Hotel San Francisco	
3	石田智恵	「伝統の破壊」と「社会への統合」のあいだで——アルゼンチン「日系失踪者家族会」の活動から	2015年4月18日	日本ラテンアメリカ学会西日本部会, 京都大学地域研究統合情報センター	

4	小川さやか	ポップカルチャーの裏の裏ーアフリカは陽気で日本はマジメか	2015年4月19日	シンポジウム「Pop Africa 2015」, 一橋大学	久保明教
5	神松幸弘	環太平洋地域における生物多様性ホットスポットー大規模攪乱がもたらすもの	2015年5月8日	立命館大学環太平洋文明研究センター第8回研究会, 衣笠キャンパス	
6	北川淳子	福井県水月湖で新たに掘削された SG14 コアの層相と対比	2015年5月24日	日本地球惑星連合 2015 年大会, 幕張メッセ	山田圭太郎・中川毅・齋藤めぐみ・スタッフリチャード・北場育子・原口強・スミスヴィクトリア・マクレーンダニエル・五反田克也・アルバートボール・兵頭政幸・鈴木克明・松下隼人・山崎彬輝・竹村恵二
7	北川淳子	2014 年水月湖採掘コアの予察的古地磁気分析	2015年5月24日	日本地球惑星連合 2015 年大会, 幕張メッセ	松下隼人・兵頭政幸・中川毅・原口強・五反田克也・北場育子・山田圭太郎
8	山田和芳・篠塚良嗣	秋田県一ノ目瀧のコア堆積物に保存された残留磁化	2015年5月24日	本地球惑星連合 2015 年大会, 幕張メッセ	安樂和央・林田明・米延仁志・五反田克也・原口強
9	小川さやか	アフリカの社会変容と笑いー趣旨説明ー	2015年5月24日	アフリカ学会第 52 回研究大会, 犬山観光センター「フロイデ」	
10	Chie Ishida	The past and the present for Families of the Disappeared in Japanese Community in Argentina	2015年5月27日	XXXIII International Congress of the Latin American Studies Association, Hotel Caribe Hilton, San Juan, Puerto Rico	
11	近藤宏	企業と先住民共同体	2015年5月30日	日本ラテンアメリカ学会第 36 回研究大会, 専修大学	
12	富田敬大	モンゴル国の都市近郊における牧畜戦略と乳製品の生産・販売	2015年5月30日	日本文化人類学会第 49 回研究大会, 大阪国際交流センター	
13	藤木利之	火山噴火と気候・植生	2015年6月13日	国際火山噴火史情報研究所第 6 回研究集会, 別府市・京都大学地球熱学研究施設	鳥井真之
14	矢野健一	縄文早期後半の滑石含有繊維土器	2015年7月11日	日本文化財科学会第 32 回大会, 東京学芸大学・東京都小金井市	藤根久
15	矢野健一	京都盆地中西部、向日市寺戸川河床堆積物の文化財科学的研究 (2)	2015年7月11日	日本文化財科学会第 32 回大会, 東京学芸大学・東京都小金井市	中塚良・辻本裕也
16	Takahiro Tomita	The Dynamics of Milk Cultures in Central Eurasia: Insights from Comparing “Yoruk: Pastoral Nomads in Turkey” with Other Altaic Groups	2015年7月20日	Altay Communities, Antalya	
17	富田敬大	モンゴルにおける牧畜活動と環境利用: 水・物質循環に着目して	2015年7月28日	環太平洋地域における人間=環境関係の人類学的検討 2015 年度第 1 回研究会, 立命館大学	
18	森下直紀	カナダにおける水銀被害: 問題認知と生業の変化について	2015年7月28日	環太平洋地域における人間=環境関係の人類学的検討 2015 年度第 1 回研究会, 立命館大学	
19	Atsushi UEMINE	Fluctuating Inter-regional Relationships during the Late Paleolithic to Jomon Era: From Interdisciplinary Study of Long Distance Transported Obsidian	2015年7月29日	XIX INQUA 2015, Nagoya, The Nagoya Congress Center	Takuya ASAI, Tarou KANNARI and Ayaka SUZUKI

20	Yoshitsugu SHINOZUKA, Kazuyoshi YAMADA, Junko KITAGAWA	Spatio-temporal structure of deglacial climate change: climate changes reconstructed from varved sediments of Lake Ichi-no-megata, Northern Japan, and its correlation with global references	2015年7月29日	XIX INQUA Congress, Nagoya, Nagoya Congress Center	KITABA, Ikuko, Katsuya GOTANDA, Hitoshi YONENOBU
21	Junko KITAGAWA	Detecting the recent change of satoyama forests using varved sediment from Lake Suigetsu, Japan	2015年7月30日	Indigenous Plant Use Forum 18th Annual Conference 2015 & Society for Economic Botany 56th Annual Conference 2015, Clanwilliam, South Africa	Yoshiaki SUZUKI, Yoshie NAKAI, Ryuji TADA
22	Kazuyoshi Yamada, Yoshitsugu Shinozuka	A Holocene paleomagnetic secular variation record from the Ichi-no-megata marl, northeast Japan	2015年7月31日	XIX INQUA Congress, Nagoya, Nagoya Congress Center	Akira Hayashida, Kazuhiro Anraku, Katsuya Gotanda, Tsuyoshi Haraguchi, Hitoshi Yonenobu
23	Junko KITAGAWA	Stratigraphy of new multiple cores from Lake Suigetsu, central Japan	2015年7月31日	XIX INQUA Congress, Nagoya, Nagoya Congress Center	YAMADA, Keitarou, Takeshi NAKAGAWA, Megumi SAITO-KATO, Richard A. STAFF, Ikuko KITABA, Tsuyoshi HARAGUCHI, Victoria C. SMITH, Danielle McLean, Katsuya GOTANDA, Paul G. ALBERT, Masayuki HYODO, Yoshiaki SUZUKI, Hayato MATSUSHITA, Akiteru YAMAZAKI, Ryuji TADA, Hitoshi YONEBU, Yusuke YOKOYAMA, Achim Brauer, Pavel Tarasov, Keiji TAKEMURA
24	Junko KITAGAWA, Kazuyoshi YAMADA	A method to detect the change of Japanese rice production – pollen records on annually laminated (varved) sediments from Lake Fukami and Lake Suigetsu, Japan	2015年8月1日	XIX INQUA Congress, Nagoya, Nagoya Congress Center	Yasuharu HOSHINO, Katsuaki SUZUKI, Yoshie NAKAI, Ryuji TADA, Hitoshi YONENOBU
25	Atsushi UEMINE	Differences between Artifacts and Geofacts: Practical Study with Phenocrysts Microscopic Observation Method	2015年8月1日	XIX INQUA 2015, Nagoya, The Nagoya Congress Center	
26	Atsushi UEMINE	Geofacts of Kanagi	2015年8月1日	XIX INQUA 2015, Nagoya, The Nagoya Congress Center	Kazuto MATSUFUJI, Mitsuhsa WATANABE, Kyoichi KIKUCHI, Masaki SHIBATA and Sei YAMAGUCHI
27	Kainei MORI	華人研究から「華人キリスト者」を考えること	2015年8月2日	「宗教と社会」学会 「東アジアにおけるキリスト教の越境と交流」プロジェクト 2015年度第2回研究会, 東京外国語大学本郷サテライト	
28	Atsushi UEMINE	Lithic Debitage Study and Organization of Settlement in Neolithic Western Japan	2015年9月9日	International Symposium on Kappable materials, University of Barcelona, Spain	

29	Kenichi YANO, Oki NAKAMURA	The Jomon of western Japan and European Mesolithic parallels: a Database Project and Study for Demographic Fluctuation	2015年9月17日	Mesolithic in Europe Conference, The Ninth International Conference on the Mesolithic in Europe, Belgrade University, Serbia	
30	上峯篤史	石の動き、人の動き—近畿地方にもちこまれた黒曜岩を手がかりに—	2015年9月19日	古代学研究会例会, 大阪市中央区・アネックスパル法円坂	
31	中塚良・矢野健一	京都盆地中西部の縄文時代前期の洪水痕跡—向日市寺戸川河床堆積物の文化財科学的研究	2015年10月30日	立命館大学環太平洋文明研究センター, 第9回定例研究会, 京都市北区・立命館大学衣笠キャンパス	
32	富田敬大	モンゴル国の都市近郊における牧畜経営の再編とその要因—乳製品の生産・販売を中心に	2015年11月21日	日本モンゴル学会, 2015(平成27)年度秋季大会, 国立民族学博物館	
33	小川さやか	〈借り〉をまわすシステム—タンザニアにおける携帯による送金システムを事例に	2015年11月28日	日本アフリカ学会関西支部若手部会, 龍谷大学セミナーハウス「ともいき荘」	
34	松永光平	中国黄河中流域黄土高原における環境変化と人間活動	2015年11月28日	立命館大学地理学会, 京都市北区・立命館大学衣笠キャンパス	
35	松永光平	中国の乾燥域における生業転換と環境変化	2015年12月25日	鳥取大学乾燥地研究センター共同研究発表会, 鳥取県鳥取市・鳥取大学乾燥地研究センター	
36	Hiroshi Kondo	Controlling Pigs: a Note on Efficacy of Power among the Emberá	2016年1月9日	Society for the Anthropology of Lowland South America, 10th Sesiquiannual Conference, New Orleans, USA	
37	安田喜憲	長江文明は日向にきた	2016年1月10日	九州・佐賀シンポジウム「東シナ海と稲作・漁撈文化」, アバンセ・佐賀県佐賀市	
38	北川淳子・篠塚良嗣・山田和芳	福井県日向湖周辺の人間活動と植生変化	2016年1月10日	第23回新春恒例汽水域研究発表会・汽水域研究会第4回例会, 労働会館・島根県松江市	入澤汐奈・瀬戸浩二
39	北川淳子・山田和芳	福井県三方五湖における古環境変遷史	2016年1月10日	第23回新春恒例汽水域研究発表会・汽水域研究会第4回例会, 労働会館・島根県松江市	入澤汐奈・瀬戸浩二
40	原田昌浩	加古川下流域の埴輪 人塚古墳の調査成果を中心に	2016年2月7日	播磨考古学会, 第17回播磨考古学研究集会 播磨の埴輪, 兵庫県姫路市飾磨区・姫路市教育会館	
41	富田敬大	モンゴルにおける生産と流通の関係とローカリテイ	2016年2月20日	東北大学東北アジア研究センター共同研究企画シンポジウム「モンゴルとカザフにおけるモノの域内流通と域外流通」, 東北大学東北アジア研究センター	
42	松森智彦	近世村落の産物構成と立地・近接関係の比較(2) - 『斐太後風土記』記載の農作物および採集品を対象に	2016年2月27日	人文系データベース協議会, 第21回公開シンポジウム 人文科学とデータベース, 京都市上京区・同志社大学	
43	千葉豊	関西地方の後期初頭土器群	2016年3月6日	シンポジウム 称名寺貝塚と称名寺式土器, 横浜市都筑区・横浜市歴史博物館	
44	北川淳子	三方五湖周辺の人間活動による植生変遷	2016年3月13日	三方五湖調査研究成果報告会, 三方青年の家・福井県上中郡若狭町	
45	篠塚良嗣	三方五湖に湖底堆積物に挟在するテフラの検出と無機分析に基づく古環境史復元	2016年3月13日	三方五湖調査研究成果報告会, 労働会館・島根県松江市	
46	神松幸弘	サンショウウオ属を対象としたユニバーサルプライマーによる環境DNAの検出	2016年3月20日	日本生態学会, 日本生態学会第63回仙台大会, 宮城県仙台市・仙台国際センター	富田勢・山中裕樹・永野昌博・源利文

47	北川淳子	中世から近世の人間活動と周辺景観の移り変わり	2016年3月21日	北潟湖調査研究成果報告会, 金津本陣・福井県あわら市	
48	篠塚良嗣	北潟湖に湖底堆積物に挟在するテフラの検出と無機分析に基づく古環境史復元	2016年3月21日	北潟湖調査研究成果報告会, 金津本陣・福井県あわら市	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第8回定例研究会	衣笠キャンパス	2015年5月	9名	
2	展覧会「縄文時代の衣服展 - 尾関清子氏の復原製作」	京都市下京区高瀬川・四季AIR・	2015年8月	103名	立命館大学環太平洋文明研究センター・NPO 法人 WACJAPAN・世界考古学会議大8回京都大会実行委員会
3	第9回定例研究会	衣笠キャンパス	2015年10月	10名	
4	九州・佐賀シンポジウム 東シナ海と稲作漁撈・弥生文化	佐賀県佐賀市アバンセ	2016年1月	99名	立命館グローバル・イノベーション研究機構「年縞を軸とした環太平洋文明研究拠点」

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）					
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間	
1	安田喜憲	コロンビアの熊野古道	電気新聞	2015年4月15日	
2	小川さやか	ラディカル・ダイアログ	京都国際芸術祭 Parasophia, 京都	2015年4月16日	
3	北川淳子・山田和芳・篠塚良嗣	地層採取 若狭高生挑む	日刊県民福井	2015年4月26日	
4	大野薫	狩る、切る、つぶす、そして祈るー石器時代の石の道具ー	南河内の石器時代展講演会, 大阪府・大阪府立狭山池博物館	2015年5月17日	
5	高橋学	御嶽山と箱根 共通する教訓は観光への影響配慮することの危険	週刊ポスト	2015年5月19日	
6	高橋学	箱根山に大噴火の可能性	ビートたけしのTVタックル, テレビ朝日	2015年5月25日	
7	矢野健一	縄文時代の京都	2015年度立命館大阪ブロンワードセミナー 大阪・京都文化講座(前期) 「大阪・京都の遺跡を読み解くー考古学研究最前線ー」, 立命館大学大阪オフィス	2015年5月25日	
8	神松幸弘	環境変動と生物多様性ーその恩恵と災厄	第6回ライスボールセミナー, 衣笠キャンパス	2015年5月26日	
9	北川淳子	世界標準時計 福井の水月湖「年縞」について	福井ロータリークラブ例会, ホテルフジタ福井	2015年5月27日	
10	安田喜憲	強い文化と弱い文化	電気新聞	2015年6月2日	
11	高橋学	小笠原沖M8.1でリスク増 東京湾が「巨大津波」に襲われる日	日刊ゲンダイ	2015年6月2日	
12	小川さやか	トークショー 椿昇×小川さやか×原田佑馬	スタンダードブックスストア心齋橋・大阪	2015年6月5日	
13	安田喜憲	畑作牧畜文明社会から稲作漁撈文明社会への転換	共生科学会基調講演, 神奈川県立生命の星・地球博物館	2015年6月13日	
14	高橋学	環太平洋地域における災害と東北地方・太平洋沖地震	立命館大学土曜講座, 衣笠キャンパス	2015年6月13日	
15	高橋学	口永良部島噴火を予告した大学教授「1年以内に東日本でも壊滅的噴火」	週刊女性	2015年6月16日	
16	安田喜憲	環太平洋文明の提唱	立命館大学土曜講座, 衣笠キャンパス	2015年6月20日	
17	高橋学	3年間で9の巨大地震!? フィリピン大地震からの南海トラフ巨大地震発生はもうすぐ!?! (最新研究と予言)	週刊女性	2015年6月24日	

18	大野薫	稲作以前の生業と食料～縄文時代のライフスタイル～	くろまる館歴史講座, 大阪府・河内長野市立ふるさと歴史学習館	2015年6月27日
19	安田喜憲	政治は文化のしもべ	電気新聞	2015年7月13日
20	神松幸弘	環境変動と生物多様性	第13回ライスボールセミナー(特別企画), 衣笠キャンパス	2015年7月14日
21	北川淳子	「年縞」もつとしりたい	日刊県民福井	2015年7月16日
22	安田喜憲	環太平洋文明から日本の未来を見据える	全国日本学協会, 京都大学	2015年7月18日
23	高橋学	大災害の時代を生き抜くー地震・津波・火山噴火ー	宮城県校友会総会, 仙台市・仙台ガーデンパレス	2015年7月20日
24	北川淳子	世界標準時計水月湖の「年縞」について	小中学校理科教員指導向上事業二州ブロック研修, 福井大学	2015年7月23日
25	小川さやか	週刊読書人上半期の収穫	週刊読書人	2015年7月23日
26	中村大	解明進む地域色豊かな縄文社会 最新の調査・研究成果をもとに	古代学協会共催講座, 京都市中京区・京都朝日会館	2015年8月1日
27	矢野健一	展覧会「縄文時代の衣服展 - 尾関清子氏の復原製作」	高瀬川・四季AIR・京都市下京区, 共催: 立命館大学環太平洋文明研究センター・NPO法人WACJAPAN・世界考古学会議大8回 京都大会実行委員会	2015年8月26日～30日
28	安田喜憲	日本神話と長江文明	河北新報	2015年8月31日
29	安田喜憲	ミュージアム・フィロソフィ	電気新聞	2015年9月2日
30	安田喜憲	日本神話と長江文明	日刊工業新聞	2015年9月7日
31	KONDO Hiroshi	conflicto interétnico y autonomía indígena: sobre una historia corta de la Comarca Emberá	Charla internacional, Facultad humanidad de Universidad de Panamá, Teatro Talller	2015年9月18日
32	矢野健一	展覧会「日曜日の遺跡」	建仁寺両足院, 京都市東山区, 共催: NPO法人WACJAPAN・世界考古学会議大8回京都大会実行委員会	2015年9月26・27日
33	矢野健一	遺跡アート展覧会 一目瞭然、遺物の堆積 立命館大・矢野教授、実物をアートに	毎日新聞夕刊第2面	2015年10月15日
34	高橋学	専門家が指摘 マンション地質調査・杭打ちは「不正だらけ」	日刊ゲンダイ	2015年10月21日
35	小川さやか	書評コメント 磯野真穂著『なぜふつうに食べられないのか』	名古屋まるはち人類学研究会・名古屋大学	2015年10月25日
36	高橋学	環太平洋地域における災害-東北地方・太平洋沖地震を中心に-	環太平洋文明研究センターニューズレターNo.2	2015年10月27日
37	矢野健一	「考古学の公共性」見つめて	朝日新聞夕刊第2面	2015年10月28日
38	大野薫	貝塚規模と形成期間に関する資料	シンポジウム大阪の縄文時代をさぐるー森の宮縄文人が語る環境とくらしー, 大阪市中央区・大阪歴史博物館	2015年10月31日
39	北川淳子	気候変動のメカニズム解明の鍵ー水月湖年縞堆積物	中部気候変動適応策シンポジウム in 福井, 福井県国際交流会館・福井市	2015年11月2日
40	石田智恵	「不在」への沈黙がもたらすものーアルゼンチン軍政下での「失踪者」と「記憶」をめぐる	映画『M エム』上映会+トーク, 先端研院生プロジェクト「映画を通じて問いなおす『記憶』の形成」, 京都市北区・立命館大学衣笠キャンパス	2015年11月8日
41	矢野健一	縄文の村で生きるにはー縄文人の人生と社会	平成27年度秋季企画展「縄文時代のこうべー一万年の記憶」講演会, 神戸市西区・神戸市埋蔵文化財センター	2015年11月14日
42	原田昌浩	埴輪からみた古墳時代の加古川ー人塚古墳の調査成果からー	加古川市文化財講座, 加古川市教育委員会 文化財調査研究センター	2015年12月5日
43	小川さやか	もやもやフィールドワーク分析編	東京迂回路研究会, アーツカウンシル東京・東京都千代田区	2015年12月23日

44	神松幸弘	人と自然のつきあいかたをサンショウウオに学ぶ	RADIANT, ISSUE1, pp.12-13	2015年12月24日
45	環太平洋文明研究センター	東シナ海と弥生文化 堆積物から読み解き 考古学研究者らシンポ	佐賀新聞	2016年1月10日
46	安田喜憲	稲作, 長江から本県に	宮崎日日新聞	2016年1月16日
47	高橋学	環境史からみた災害と岡山	-地震・津波・火山噴火-, 岡山市民会館・岡山市北区	2016年1月30日
48	大野薫	弥生灌漑農耕の始まり	平成27年度公開講座, 大阪府大阪狭山市・大阪府立狭山池博物館	2016年2月13日
49	高橋学	東京湾直下大地震の可能性 発生5分後、湾岸エリアに津波	週刊女性	2016年3月1日
50	北川淳子, 篠塚良嗣	三方五湖周辺 森だった	福井新聞	2016年3月14日
51	中村大	土偶とアート	第20回文化情報学部ランチセミナー, 京都府京田辺市・同志社大学新田辺キャンパス	2016年3月24日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	神松幸弘	エスベック株式会社	第18回公益信託エスベック地球環境研究・技術基金奨励賞	多元素同位体分析指標を用いた日本産小型サンショウウオ類の生態系における機能的多様性の解明	2015年8月26日

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	渡辺公三	環境考古学を基軸とした人類学的「環太平洋文明学」の構築	基盤研究(A)	2013年10月	2017年3月	代表
2	安田喜憲	環境考古学を基軸とした人類学的「環太平洋文明学」の構築	基盤研究(A)	2013年10月	2017年3月	分担
3	高橋学	環境考古学を基軸とした人類学的「環太平洋文明学」の構築	基盤研究(A)	2013年10月	2017年3月	分担
4	矢野健一	環境考古学を基軸とした人類学的「環太平洋文明学」の構築	基盤研究(A)	2013年10月	2017年3月	分担
5	石田智恵	環太平洋における在外日本人の移動と生業	基盤研究(A)	2013年4月	2018年3月	分担
6	小川さやか	アフリカにおける地方経済活性化と資源保全に関する実証研究-タンザニアの事例	基盤研究(A)	2013年4月	2018年3月	分担
7	那須浩郎	古代と中世における農耕地雑草の多様性変化と人間活動の関係	基盤研究(B)	2013年4月	2016年3月	代表
8	矢野健一	水中ロボットを利用した葛籠尾崎湖底遺跡の調査	基盤研究(B)	2015年4月	2018年3月	代表
9	藤木利之	火山噴火の植生へのインパクトと回復プロセスの高分解能な復元	基盤研究(C)	2014年4月	2017年3月	代表
10	小川さやか	中古品と非正規品の越境取引にみる現代アフリカの消費文化に関する研究	若手研究(B)	2012年4月	2016年3月	代表
11	森下直紀	先住民とカナダ水俣病の環境正義をめぐる環境史	若手研究(B)	2013年4月	2017年3月	代表
12	近藤宏	パナマ東部先住民エンベラにおける「共同体企業」の実践に関する人類学的研究	若手研究(B)	2015年4月	2017年3月	代表
13	富田敬大	近現代モンゴルにおける人間-環境関係の変容に関する研究	若手研究(B)	2015年4月	2017年3月	代表
14	石田智恵	〈二世〉から見るブエノスアイレス都市社会の編成と変容:移民と市民の人類学的研究	特別研究員奨励費	2014年4月	2017年3月	代表
15	森下直紀	病/障害者の地域活動・移行支援に関する制度・組織・人材のあり方についての研究	挑戦的萌芽研究	2013年4月	2016年3月	分担

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	安田喜憲	年縞環境史による文明の興亡と歴史の展開の研究	研究推進プログラム(科研費連動型)	2015年10月	2016年3月	代表
2	高橋学	自然災害と文明の興亡・歴史の展開の研究	研究推進プログラム(科研費連動型)	2015年10月	2016年3月	代表
3	富田敬大	近現代モンゴルにおける人間＝環境関係の変容に関する研究	公益財団法人高梨学術奨励基金 [若手研究助成]	2015年4月	2016年3月	代表
4	神松幸弘	多元素同位体分析指標を用いた日本産小型サンショウウオ類の生態系における機能的多様性の解明	公益信託エスベック地球環境研究・技術基金	2015年8月	2016年8月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
該当無し								